

徳島県ひきこもりに関する実態調査の結果について

1 調査目的

社会的な注目が高まっている、いわゆる「ひきこもり問題」に関して、本県においても、地域における概況を知ることによって今後の支援体制を検討していくための基礎資料とすることを目的に、調査を実施した。

参考：内閣府は平成27年及び平成30年に、ひきこもりに関する標本調査を全国で実施、合計約115万人がひきこもり状態にあるとの推計結果を発表。

2 調査概要

調査対象：概ね15歳以上で、病気や障がい・老齢といった理由無く、
直近6ヶ月以上に渡り、仕事や学校に行かず、
家族以外との交流がほとんど無く、
外出しない（買物程度の外出は除く）方

調査方法：県内全民生委員・児童委員（1,996人※欠員除く）に対し、
既に把握しているひきこもり該当者の年齢や性別等に関して、
アンケート形式の調査票を配布・回収

調査時点：平成31年4月現在

回収率：81.6%（1,628人）

3 調査結果

調査結果の主な項目については次のとおり。

- ・ 民生委員・児童委員が把握しているひきこもり該当者は550人。
本県人口（15歳以上）の約0.09%に相当。
- ・ 性別では男性が428人（78%）と多い。
- ・ 年齢別では40歳代が161人（29%）で最も多く、
30～50歳代の中年層に多い。
- ・ ひきこもり期間については5年以上の長期に渡る方が66%を占めた。
- ・ ひきこもりに至った理由は精神的な疾病や性格が166人（30%）、
離職127人（23%）、不登校66人（12%）となっている。